

二〇二六年三月七日

日溜りに布陣拡げて犬ふぐり
春泥にあひ譲り合ふ苑小径
運転手のくしやみマイクに響きけり
野路うらら歴史散歩の本抱へ
啓蟄や日の斑を突く雀どち

澄子
康子
なつき
うつき
伸枝

二〇二六年三月六日

野遊びや句帳に記す草木の名
野焼いま朝戸を繰れば句ひけり
囀や霊場めぐるぼけ封じ

うつき
せいじ
なつき

二〇二六年三月五日

朽木かと思紛ふ鉢の木も芽吹く
茎立の黄花を夫の仏前に
俯きて瓔珞重し古雛
三寒に籠り四温の庭手入れ
花辛夷ひとつもにして苑統ぶる

愛正
うつき
澄子
やよい
澄子

二〇二六年三月四日

望潮キヤッチャーミット構へけり
流し雛雨に打たれてゆき悩む
伐採の残響渡る斑雪山
祈られし数ほど長き吊し雛
仕舞はれて雛向き合ふ箱の中
にはたづみひとつひとつに春の空
生家跡いまは更地や犬ふぐり
被災地の瓦礫の山になごり雪

明日香
たか子
わたる
むべ
伸枝
澄子
よし女
和繁

二〇二六年三月三日

犬ふぐり神馬の蹄音近づき来
玻璃窓は大正硝子吊るし雛
幼な子の手にそえて蒔く花の種
手毬麩を浮かせて老の雛の膳
逆光に浮かぶ人影蜆舟

うつき
風民
みきお
うつき
みきお

二〇二六年三月二日

タンカーの動くともなき沖日永
春日影遊ぶ数寄屋の深庇
馬柵越しに鼻息くらふ犬ふぐり
焼杉の塀よりなだれ花ミモザ
退院を寿ぐ春の雨ならむ

やよい
むべ
うつき
康子
董雨

二〇二六年三月一日

夫婦して席譲られて暖かし
山茱萸や句碑立つ丘を明るうす
たんぼぼや厩も馬も泥だらけ
児の作る紙雛ほほを寄せ合へり
梅東風や骨董市の値下げ札
蛇行する川に花菜の帯なせり
茶を足して話し継ぎ足す春炬燵
大地蹴るハングラライダー風光る
白玉の蓄ほぐるる利休梅
麗らかや馬との会話相通じ

山椒
風民
うつき
康子
なつき
康子
伸枝
ほたる
明日香
うつき

毎日句会みのる選・二〇二六年三月九日